

根室市 移住コーディネーターの挑戦 リアルを発信し、 新しい人の活気を!



飯田 雄貴 (いいだ ゆうき)

1997年5月生まれ、根室市出身。大学卒業後、採用コンサルタントとして活動し、企業の中途採用支援業務に4年間従事。2024年5月より根室市地域おこし協力隊の移住促進コーディネーターとして着任。

【協力隊への応募経緯】

前職では、東海圏内の地方部にある中小企業に対し、採用課題の解決に向けたコンサルティング業務を実施していました。その業務のなかで、採用課題の根本的な原因として「町自体の人口減少」や「進学や就職に伴う若手人材の流失」といったものに直面することも多く、一企業の努力では解消し得ないような問題にぶつかる機会が非常に多くありました。また、毎年根室市へ帰省するたびに、根室市でも同様の事象が顕著に発生していることを感じており、「いつかは地元がなくなってしまうのではないか」とすら考えるようになりました。

そんななか、人材業での仕事をしていくなかで「地方創生事業に携わりたい」「北海道で暮らしたい」「自

分で事業を起こしてみたい」という想いが日に日に強くなり、2023年秋から冬ごろに転職や企業を考え、さまざまな情報収集を始めました。そのなかで『根室市地域おこし協力隊』の制度を知り、「この制度であれば自分の経験を活かしながら、やりたいことを叶えるチャンスがあるかもしれない」と思い、すぐにエントリーをしたというのが応募の背景です。

【これまでの活動・今後の展望】

着任1年目は、『根室市内の現状を知る』という活動と『根室市内での人脈づくり』にフォーカスした活動に従事しました。根室市役所の方や地元企業との打ち合わせを通じて「地元の人々が根室市の現状と未来に対してどう考えているのか」を知るための活動を行ったり、同じ地域おこし協力隊メンバーとの交流を深め、共同イベント活動などを実施しました。根室市は春～秋ごろにかけてさまざまなお祭りやイベントが実施されるという特徴があり、そうしたイベントに『根室市地域おこし協力隊』として飲食等のブースを出店したり、地元企業とのコラボといった形で交流を図る活動を継続しました。結果として、自身の活動を応援・協力してくれるという方々とのご縁があり、任期1年目の終盤からは移住・定住促進を目的とした事業づくりに着手することとなりました。



協力隊同士で地元のお祭りに出店

着任2年目を迎えた現在は、自身の事業として『移住・定住促進に向けた情報プラットフォーム』の開発を行っています。地方移住においては、仕事や住居探しに並び、人間関係（新しいコミュニティ）づくりといった部分に大きなハードルが存在している状況です。その状況は根室市も例外ではなく、ネットなどでは根室市の仕事等に関する情報が不足しているため、根室へ直接足を運ばず情報収集を行う難易度は高い状態となっています。市外（道外）からのアクセスが良い町ではないため、「情報収集しづらい＝根室市への移住意向が醸成されない」という図式となります。そのため、まずは『ネットを通じて根室市のことを気軽に知れる』という環境が必要であると考え、「このサイトを見れば根室市の暮らし・仕事のイメージ・コミュニティが分かる」という情報プラットフォームを作ろうと決意しました。2025年度中にはリリース予定であり、根室市のさまざまな企業にも参画いただきながら、根室市の情報を今よりもオープンにすることで、移住・定住者の増加につながるような施策にしたいと思っています。

さらに、サービスが根室市の情報プラットフォームとして浸透した暁には『採用・商品販売・コミュニティのマッチングプラットフォーム機能』を拡張し、「このサイトを見たら根室市が理解でき、つながりが持てる」と言われるサービスにしたいと思っています。ゆくゆくは道東エリアや道北・道南の地方部エリアにまで普及し、『北海道の地方部情報を網羅したプラットフォーム』としての役割を担えるような媒体になりたいと考えています。



移住検討者とお話している様子

【やりがい・課題】

協力隊活動のやりがいは、『地域貢献の実感』と『故郷をもっと好きになれること』の2つです。活動を頑張っていると、多くの市民・企業の方々に応援される機会が日ごとに増えていると感じています。ほかにも、地元企業とのコラボ企画などを通じて、普段は歩行者が少ない商店街にたくさんの人が歩いている様子を生み出すなど、文字通り地域に貢献できていると感じることがとても嬉しい^{うれ}です。そうした活動のなかで、子どものころには気づけなかった、根室市で暮らす人々の温かさや、「根室を元気にしたい」という想いのものと仕事・イベントに尽力する方々の姿を目にする機会も多く、『人』を中心に根室市のがもっと好きになりました。

一方で、『新しいものを浸透させることの難しさ』という部分には大きな課題感を持っています。移住者獲得に向けて採用の切り口からアプローチした際、都市部では当たり前のように普及しているような人材紹介型サービスなどをご提案するも、仕組みや費用感に対してご理解いただけず、検討すら難しいといったケースが生まれました。ほかの協力隊員との協業活動においても同様のケースが見受けられたため、「新しいものをどのような形にし、どのように受け入れてもらうか」を模索し続ける必要があると感じています。

【根室市地域おこし協力隊について紹介】

現在、根室市地域おこし協力隊として活動している多くの方が『何らかのスペシャリスト』であり、すでに自身の事業を持たれている方が多いです。私は雇用・採用支援のスペシャリストですが、ほかには飲食物の商品開発者、サウナイベーター、プロカメラマン兼映像作家、トレーナー、作曲家、エスティシアン、イラストレーター…など、さまざまな分野で活躍する方が集まっています。根室市以外のエリアでもお仕事をされている・できるという方ばかりなので、何か興味があれば、根室市地域おこし協力隊公式 Instagram (@nemuro_shot) までぜひご連絡ください！